

★紹介コーナー No. 5

生麦事件をもっと知りたい？！それなら「生麦事件参考館」へ行こう！

幕末、尊王攘夷の嵐が吹き荒れていた頃、浪士たちが神国日本を汚す外国人たちに天誅を下そうと狙った外国人襲撃殺傷事件は未遂も含めれば、その数は20件以上にものぼりました。しかし、教科書に載っているのは唯一「生麦事件」だけ。それがこの事件の重要性を物語っているが、果たして、生麦事件はどんな事件で、歴史史上どんな影響をもたらしたのだろうか？そんな興味を持たれた方は、生麦事件参考館を是非とも訪問することをお勧めします。今回は、生麦事件に関する私設の資料館「生麦事件参考館」を紹介します。

たくさんの知識が分かりやすく頭に入ります

生麦事件参考館は1994年に酒類商を営んでいた浅海武夫（あさうみたけお）さん(87)が自宅を改装して開設したもので、隣には「神田屋酒の記念館」も併設している。場所は京浜急行の生麦駅近く(下の地図を参照)にあります。ここを訪れると、まずビデオ上映が行われます。最初に見るのは、地元のケーブルテレビ(YOUTV)の制作した「横浜ミストリー」(ヒストリー+ミストリー?)という横浜の歴史を紹介する番組の「生麦事件～150年目の真実～」(2012年9月放送)。これには当時の時代背景や事件発生の経緯などがとても分かりやすく面白くまとめられています。続いて、10年ほど前の浅海館長の講演ビデオ。当時の浅海さん、講演で全国を飛び回っていた頃でしょうか、精力的に沢山の情報を早口で語られています。面白いエピソード満載で、事件発生とその後について説明してくれるので、よく理解できます。これらを視聴すれば、生麦事件に関する殆どのことは把握できてしまいます。また、事件にかかわった様々な人物の様子や彼らの人生までもが、かなり深く伺い知れます。その後、室内に展示されている事件を実証する貴重な資料をつぶさに見れば、あなたはもう生麦事件に関してはかなり詳しくなっていることでしょう。そして、いろいろ考えさせられます。ただ、幕末期の日本に関する知識が元々どれだけ蓄積されているかによって、理解の深さは人それぞれでしょう。ビデオの内容を忘れてしまっても、浅海館長のサイン入りの小冊子(「ドキュメント生麦事件」浅海武夫著、「英国から見た薩英戦争」平間洋一著、付記:旧東海道 生麦歴史散歩)を



生麦事件参考館館長の浅海武夫さん

生麦事件は、幕末の文久2年8月21日(1862年9月14日)に、武蔵国橘樹郡生麦村(むさしこくたちばなぐんなまむぎむら現・神奈川県横浜市鶴見区生麦)付近において、薩摩藩主島津茂久(忠義)の父・島津久光の行列に乱入した騎馬のイギリス人たちを、供回りの藩士たちが殺傷(1名死亡、2名重傷)した事件である。尊王攘夷運動の高まりの中、この事件の処理は大きな政治問題となり、そのもつれから薩英戦争(文久3年7月)が起こった。事件の石碑は、京急本線生麦駅近くに残っている。(ウィキペディア「生麦事件」より)



鶴見区生麦4丁目の人家の塀に掲示されている案内板。4人が第一撃を受けたところで、当時の生麦村名主(関口家)が書き残した日記文と早川松山が書いた錦絵「生麦之発殺」で描写。平成11年1月生麦事件参考館設置。

いただけるので、そこに年代や名称など必要なことは殆ど記載されているので大丈夫です。こうした紙資料は後から見直すことができるので有り難いです。

「生麦事件は、日本の近代国家成立の発端となった事件」と言われて

浅海さんが、生麦事件研究と資料収集を始めたきっかけは、家業に励んでいた40代半ばのある日(昭和51(1976)年)、鹿児島からやって来た男性に、生麦事件の碑の場所を聞かれたことにあります。後日、その方から分厚い手紙をもらい、そこには「生麦事件は、日本の近代国家成立の発端となった事件であるのに、なぜ資料を見られる場所が地元の生麦にはないのか」と書かれていた。それが契機となったのですが、自分の知識が足りないと感じ、早稲田大学のオープンカレッジに毎週金曜日10年も通い、近代史を学び直したそうです。だから、講演内容を聴いても、知識の厚みが半端ではないのだと納得です。史資料収集は様々な方法で続けられ、ついに、1994年、家業からも離れ、念願の生麦事件参考館が開館されたそうです。現在、資料数は600点にのぼるとのこと。「生麦事件について全国255か所で講演をしましたよ。あの頃は楽しかったね」と、浅海さんは笑顔で当時を振り返ります。その後、大病を患い高齢でもあり、一時休館もしていましたが、現在は予約をすれば、見学できるようになっています。

他にはない貴重な資料が見られます

展示の撮影は禁止なので、ここに掲載できませんが、他にはない貴重なものが見られます。なかでも殺害されたりチャードソンの遺体の写真(F.ベアトが撮影)は実に鮮明で、事件が単なる昔のお話ではなく、目の前で起きたかに思えるほどのリアル感でした。その写真は流布されている遺体の写真と似てはいますが、確かに違って、こちらは、遺体の足元がシートで覆われていました。この写真を手に入れるために、浅海さんは、オランダのライデン大学写真絵画博物館に何度も交渉したそうです。また、歴史研究家の間では有名な「関口日記」(生麦村の関口家の歴代の当主が18世紀後半から約140年間書き続けた日記)は横浜開港資料館にあるそうですが、生麦事件のことが克明に記してある「文久2年」の分は当館所蔵で、展示されていません。また、額に手紙のようなものが2通入って、壁に展示

生麦事件の時代背景と重要性

200年以上の鎖国政策をとってきた徳川幕府の弱体化、欧米列強からの日本開国への圧力、その圧力に屈して、幕府は嫌々開港したものの、討幕をめざす有力藩が天皇を掲げて(尊王)、外国人排斥(攘夷)へと動乱が続いていた最中(1862年)に、この事件は起こった。他の外国人殺傷事件の場合殆どが、浪人となった武士が、始めから外国人を狙い打ちしているのだが、生麦事件の場合は、関内の居留地から川崎大師に遊びに行く外国人たちが偶発的に大名行列にすれ違い、無礼を働いたと見なされて藩士に切り付けられた事件で、他の襲撃事件とは違っている。英国から見れば、その後の薩摩藩の対応が悪かったので、攻撃せざるを得ない状況になったのだが、この戦いで薩摩藩は軍事力の歴然たる違いを知り、完全に方針を転換し、英国に協力を仰いだ。その後、長州と手を結び、明治維新(1868年)へと突き進んで行ったが、それはなんと、薩英戦争(1863年)後、わずか5年で成し遂げられたのである。それ故、生麦事件が日本の近代国家への道を早めたと言えるのだろう。



鶴見神社の黒川荘三宮司が明治16年に建てた事件の碑(仮設中)これを見に鹿児島からやって来た人が浅海さんと生麦事件研究を結びつけることになった。(現在は、キンビール生麦工場の玄関入口付近にあります)

されて、なかに「英吉利人が殺害され…」のような部分があったので、「あれは何ですか？」と尋ねたところ「よくわからない。でも事件のことが書いてあるので入手しました。」との答えでした。エエー、わからない?!でも、今はわからなくても、そのうち新発見があって、わかるようになるかもしれませんね。そういうところも歴史の面白さなのではないでしょうか。

生麦事件での興味深いエピソード

浅海さんの講演ビデオの中には、面白い話がいくつもありましたが、なかでもとても興味を引かれた話が2つあります。一つは、事件直後、薩摩藩(正確には、三田の薩摩屋敷にいた留守居役の西筑右衛門の機転で)が「岡野新助」という架空の犯人をデッチ上げたことにより、真犯人たち(4人の名前が挙がっている)が切腹しないで済み、その後彼らの多くが、明治政府の重職を歴任して、日本の近代化に努めたという話。これはスゴイ。無駄死にする武士たちが多かった時代、こうして生き残ることができ、しかも出世して名前を残すことができたなんて驚きでした。もう一つは、幕府は英国の要求どおり賠償金10万ポンドを支払ったが、薩摩藩が要求(2万5千ポンドと犯人の処刑)に応じないので、英国艦隊が薩摩へ行ったものの、当初全く戦う意志がなかったらしい。船の弾薬庫の前に幕府からもらった賠償金10万ポンド相当の金貨が入った箱(45箱)をそのまま積んで置いてあった。思いもよらず、薩摩側が攻撃してきたことに慌てたが、金貨の箱が邪魔をして弾薬庫を開けられず、初弾発砲までに2時間もかかり、英国側の被害を広げたという話だ。これには何とも苦笑せざるを得なかった。(詳しくは参考館のビデオと小冊子をご覧ください)

親戚でもないけど、生麦事件犠牲者のお墓を新設



浅海さんの生麦事件への思い入れの凄さはこんなところにもあります。それは、外国人墓地に眠るマーシャルとクラークの墓の傷みがひどいことから、そこから土を取り、リチャードソンの墓の隣に彼らの墓を新設し合祀したことです。イギリス大使館からも出席してもらい、新設記念式典を行ったそうです。これにはかなりの私財を投じたとのことで、「親戚でもないんですがね」と言っているが、浅海さんにとっては、彼らは親戚以上の存在のようなのだと思います。2014年には、イギリスからマーシャルの曾孫さんも訪れています。

外国人墓地裏門(元町入口付近)から入ってまっすぐのところにあるリチャードソンの墓地に、2006年、浅海さんによってマーシャル、クラークの墓が新設された。右隣の大きな石塔はオランダ人船長フォスとデツケルの墓碑。生麦事件(1862.9.14)より前の1860年2月26日に関内で襲われ犠牲となった。犯人は特定されず、幕府は1,700両の罰金を払った。この頃は増徳院の境内に、日本人墓地と外国人墓地が混在していた。この翌年から日本人の墓地を分離して外国人の専用墓地となった。(ジャン・ヨコハマ氏の解説)

戦後の高度成長期に私たちは平和と経済繁栄を謳歌して、昔のことをほぼ忘れていました。その間、数多くの歴史の遺産を失ったかもしれません。これからは、もっと郷土について考え、その歴史、文化、自然や風景などを大事にすることが、良い未来につながってゆくのではないかと、生麦事件参考館を訪れ、浅海さんにお会いして思いました。（横浜歴史サロン 渡辺登志子）

地図 —— 生麦事件参考館・事件発生跡地・事件碑



神奈川県横浜市鶴見区生麦 1-11-20 Tel. 045-503-3710 ※訪れる前には連絡が必要です